

昨秋当財団で実施した、フランスの交通分野における脱炭素への取り組みに関する調査報告動画を現在制作しています。  
今回その一部をご紹介します。

フランスは2050年のカーボンニュートラル実現を目標としています。  
その対策の柱のひとつが、自転車の利用拡大です。  
フランスは、もともと自転車による移動が少なく、2019年時点の交通分担率は2.7%でした。  
近隣諸国と比べても、たいへん大きな差があります。  
また、フランスでのクルマ移動の40%はその距離が5キロ以内、というデータがあります。  
その距離は自転車でも20分以内で移動が可能であることから、もっと自転車の利用を増やすチャンスがあると見込まれています。  
そのため、2018-22年、2023-26年と2期に亘る自転車計画を策定し、自転車を利用しやすい環境づくりを進めてきています。

代表的な取り組み例として、自転車レーンの拡充が挙げられます。  
観光地として有名なルーブル美術館北側の道路は、4車線あった車道のうち1車線だけを残し、それ以外はすべて自転車レーンに変更されました。  
また、パリの中心部を流れるセーヌ川沿いはかつて車道であったものが、自転車も通行できる遊歩道に変更されました。  
クルマ1台が通れる細い道にも、自転車レーンが設けられています。

そのほか、電動自転車普及のための購入補助金、駐輪場の敷設など、多岐に亘る取り組みを実施しています。

日本でも交通における自動車への依存度を低くしようと、自転車活用推進計画が進められています(※)。  
しかしながら、取り組む姿勢や政策に大きなギャップが…。

当調査の報告動画は、今回一部ご紹介した自転車利用の拡大に向けた取り組みを含む5つの章で構成され、来月以降順次公開する予定です。

※本テーマに関し、当財団が昨年制作した調査報告動画『どこまで実現する？ 自転車を利用しやすい環境づくり』は以下URLよりご覧になれます。

<http://www.jaef.or.jp/6-kurumajuku/johokan/latest-news/index.htm#ch14>

---

日本自動車教育振興財団 メルマガ事務局

【読者の皆さまへ】

私どもは、先生方や高校生の皆さんにより有益なご支援を提供してまいりたいと考えております。

つきましては、当財団の事業やご支援メニューについて、ご意見やご要望等をお寄せください(以下のいずれかの方法にてお願いします)。

1. 当メルマガに返信
2. SNSでのコメント、返信  
X(旧ツイッター) <https://twitter.com/jidousyakyoku>  
フェイスブック <https://www.facebook.com/jaef2019/>